

市政報告

仙台市議会議員
田村 勝

令和7年11月発行 VOL38

電話番号 090-2275-3540

mas.tamura@icloud.com

ご意見・ご要望は
こちらにアクセスを！



仙台市議会第3回定例会は、10月8日に閉会しました。第3回定例会では、宮城野区の長年の課題であった福田町・田子・福住町・仙石エリアの水害対策が、大きく前進することになりました。中でも大きく前進するのは、田子排水機場のポンプ増設です。仙台市の「流域治水推進モデル事業」として、水路改良や雨水流出抑制などの総合的な取り組みが進む中、停電時にも稼働できる非常電源設備の整備も検討されます。長年の懸案であった排水能力の向上が、いよいよ具体化します。また、JR仙石線福田町駅の移設と連携した水路拡幅や、農地を活用した「田んぼダム」整備など、多層的な治水対策も始動します。地域の皆さまの声を受け止め、災害に強いまちづくりが着実に形となりつつあります。一方で、10月1日、宮城野区東部で記録的短時間大雨情報が発表され、多くの被害が発生しました。被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。こうした中で、宮城野区東部の排水施設の稼働状況など、議会会期中の出来事として注目された事案について会派を通じて質疑を行いました。あわせてご報告します。

福田町エリアの冠水対策、抜本的な改善策がいよいよ動き出します！

この地域では、梅田川への排水能力が不足しており、周辺の住宅地で冠水が発生してきました。また、過去には田子排水機場の電気室が浸水し、停電によってポンプが停止するなど、設備の脆弱さも課題でした。浸水対策は施したものの、こうした背景を踏まえ、新たに建屋を建設しポンプを増設、停電時にも稼働できる非常電源設備を整備する方針が示されました。梅田川への排水量増加については宮城県と協議のうえ許可を取得し、令和8年度に計画を策定、令和9年度から詳細設計、順次工事着手となる見通しです。地域にとっては、何十年も待ち望んだ抜本的な改善策が、いよいよ動き出します。

田子排水機場に建屋を建設、非常電源を備えたポンプ増設の計画が決定！！

今後の小鶴雨水ポンプ場建設計画と仙石雨水ポンプ場の扱いは

☑小鶴雨水ポンプ場整備計画の見直しと今後の検討方針について

この地域の対策として、平成21年に東北学院中学、高校の東側に「小鶴雨水ポンプ場」を新たに建設する計画が策定されましたが、その後の震災による復旧対応や、令和元年の東日本台風での甚大な浸水被害を受け、仙台市全体で浸水対策を見直すこととなりました。加えて、福田町駅移転事業に伴い水車堀を改修することで流下能力が向上する見込みが立ち、現時点では小鶴雨水ポンプ場を新設するよりも、田子排水機場の能力増強が最も費用対効果が高く、早期に効果を発揮できる対策と位置づけられました。なお、小鶴雨水ポンプ場の計画自体が「廃止されたわけではなく」、今後の全体見直しの中で改めて位置づけを整理する方針です。

☑仙石雨水ポンプ場は今後も地域の冠水対策を支える重要施設として継続

「仙石雨水ポンプ場」は、当初は小鶴雨水ポンプ場が完成するまでの暫定的な排水施設として整備されたものです。しかし現在では、地域全体の治水システムの中で重要な役割を果たしており、今後も継続して運用していく方針が示されています。仙石雨水ポンプ場も引き続き地域の冠水対策を支える重要な施設として機能していくことになります。

10月3日

10月1日の豪雨災害を受けて～会派代表より～

宮城野区東部における排水施設や排水ポンプ車配置の当日の状況について伺う。

(下水道管理部長) 白鳥、高砂、福室地区などの雨水を仙台港に排水する西原雨水ポンプ場は、午前9時頃から、すべてのポンプを稼働。5カ所の緊急的に内水を排除するポンプのうち、4カ所は、午前8時50分頃から順次稼働。残りの1箇所(福室1丁目排水施設)は、発電設備の不具合により、代替設備の手配に時間を要し稼働が遅れた。排水ポンプ車の白鳥地区への配置は、発電設備の不具合で稼働が遅れた福室1丁目地区への配置について検討したが、配管の切り替えなどが必要であり、相当な時間を要することから、配置を見送った。その後、東側に位置する蒲生雨水ポンプ場において、ポンプ場の能力を超えた雨水が場内に流入し、電気設備が水没し、3台のポンプのうち2台が停止し、能力を補完するため、この排水ポンプ車を配置した。

これまで、この地域は、排水施設の稼働をめぐる、たびたび問題が発生してきた。そのたびに、排水施設が確実に稼働し、その能力を十分に発揮できるよう、管理を徹底するとの説明がされてきたが、これまでの教訓が十分に生かされているとは、到底言えない。今後、同様の事態を繰り返さないためにも、具体的にどのような改善、強化策を講じていられるのか伺う。

(副市長) これまでも、白鳥地区、あるいは高砂地区等の浸水被害が生じた際には、都度、必要な対応を行ってきたが、今回の状況を踏まえ、さらなる改善が必要であると捉えている。今後は、代替の発電機により稼働した緊急内水排除ポンプ(福室1丁目排水施設)は電源の問題がありましたが、これらの電源確保を速やかに行い浸水対策を講じる。今回のような1時間当たり81mmという大雨が発生する場合でも、ポンプ場整備によるハード対策に加え、緊急内水排除ポンプによる排水、あるいは大雨対策を迅速に行う訓練の実施等のソフト対策も含めて、地域の安全確保に必要な取り組みを早急に進めていきたい。今回、被災した皆様には大変申し訳ないと思う。

河北新報＜訂正記事＞

訂正 4月、仙居町の排水ポンプ場の設置状況は、白鳥地区3カ所、高砂地区2カ所の計5カ所であった。いずれも停止しておらず、高砂地区の1カ所に稼働の遅れがあった。停止したのは、蒲生地区の蒲生雨水ポンプ場のポンプ2台。

10月5日河北新報朝刊



今回の大雨は、仙台市の整備基準、10年確率降雨量52mmを大きく上回る81mmの雨が観測され、市内でも冠水被害の大きい地域に集中したことが被害拡大の一因。特に福室1丁目では、ポンプの稼働が遅れたものの、最終的には稼働し、排水対応が行われました。また、蒲生雨水ポンプ場の浸水による一時稼働停止がありましたが、他の排水区への影響はないとの見解です。なお、福室排水区の抜本的な対策として進められている「西原雨水ポンプ場」の増設稼働は令和9年度を予定しておりますが、それまでの間の暫定的・補完的な対応が求められています。

豪雨被害が発生した10月1日より遡ること6日前の9月25日、私はこの地区の今後の冠水対策の方向性について、議会の場で質疑を行っておりました。その後、10月1日の被害を受けて明らかになった課題について、10月3日の会派代表による総括質疑の中で、市の公的な見解を確認しました。私自身も現地を確認し、住民の皆さまから多くの切実な声を伺っています。排水施設や電源設備の不具合など、これまでの教訓が十分に生かされていない点も見受けられ、早急な改善が求められています。こうした現場の実情と議会での議論を踏まえ、課題を一つひとつ明らかにし、再発防止と安全対策の強化に全力で取り組んでまいります。

9月25日 白鳥地区の冠水対策と西原雨水ポンプ場の増設について

Q 白鳥地区では昨年大雨時、仮設排水ポンプの稼働が遅れたことで冠水被害が発生しました。水位の基準や委託業者との連携など、運用改善はどのように行われたのか伺います。

A (下水道調整課長) 出勤を指示する水位を従来より10cm引き下げ、早期対応を図りました。また、緊急内水排除ポンプを3カ所に配備している白鳥地区では、委託業者を1社から2社に増やし、緊急時の対応体制を強化しています。

Q 仮設ポンプの早期稼働につなげる仕組みを検討すべきと考えますが、見解を伺います。

A (下水道調整課長) 政令指定都市へのアンケート調査で、1都市が町内会に小型ポンプを貸し出し、町内会が運転している事例が確認されました。本市の仮設ポンプはいずれも大型で、安全面や技術的な課題がありますが、早期稼働の重要性は認識しており、今後も運用体制の在り方について検討を進めます。

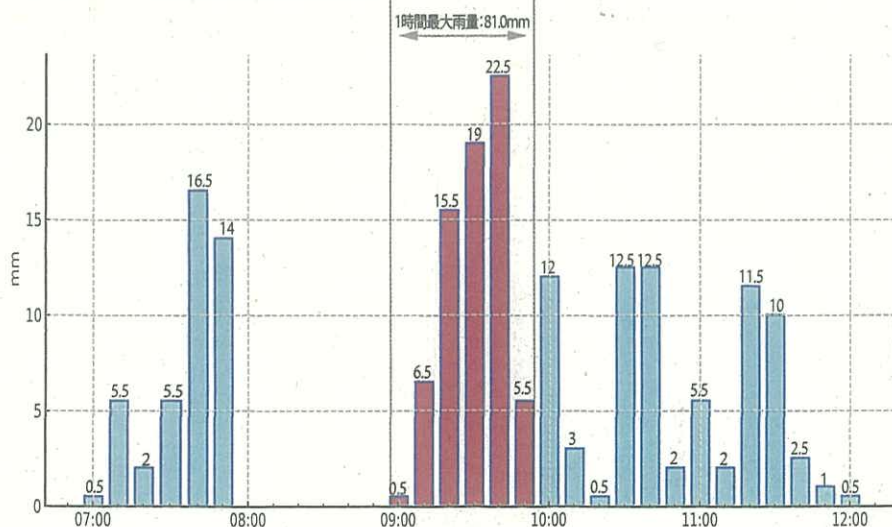
Q 西原雨水ポンプ場の増設により排水能力は向上するとしているが、西原雨水ポンプ場が稼働してから、白鳥地区で水位が下がるまでに20分以上かかることが明らかになった。西原雨水ポンプ場の稼働基準や運用方法の見直しを含め、こうした課題にどのように対応していくのか、また令和9年度の供用開始の時期とそれまでの暫定的な対策も含め、考えを伺います。

A (下水道計画課長) 西原雨水ポンプ場には、既存より低水位で稼働できる新ポンプを設置する予定で、運用の柔軟性が高まります。また、雨水幹線の構造改良による流下能力の強化を検討中であり、供用開始までの間も簡易的な流下能力向上策を講じる方針です。増設工事は順調に進んでおり、令和9年度年央の供用開始を目指しています。

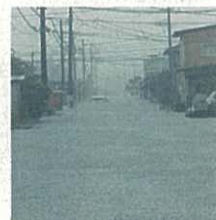
10月1日 かつてない記録的豪雨が直撃 - 一瞬で地域をのみ込んだ雨

降水量

(計測地：宮城野消防署高砂分署)



9:48 高砂駅前



10:42 白鳥地区



10:46 産業道路下



13:07 高砂向田

田んぼダムの整備も始まります！事業完了は令和10年度！

農地を活用して一時的に雨水をためる「田んぼダム」は、今年10月に、対象となる農業者の皆さまへの説明会を開催し、令和8年1月以降に工事を開始する予定です。対象エリアは約170ヘクタールを計画、令和10年度末の事業完了を目指しています。計画した田んぼの所有者の了解を全て頂いた場合、25メートルプール、約300杯分（約18万立方メートル）もの雨水を一時貯留でき、下流域の浸水被害軽減に大きな効果が期待されます。

田子の田園地帯



田子排水機場
(外観・場内1階既存ポンプ設備)



仙石雨水ポンプ場



小鶴雨水ポンプ場計画地
(東北学院東側)

議会録画中は
こちらからアクセスを！



福田町駅移設事業が前進！！治水とまちづくりが一体で進行

☑ 駅の移設と水害対策を一体で進め、利便性と防災力を同時に高めます。

駅のバリアフリーを目的としたJR「福田町駅」の移設事業は、水害に強いまちづくりをめざす「流域治水モデル事業」と同時進行し、その主要な事業としても進められます。新駅の整備は、こうした課題を抜本的に解決し、地域の防災力と利便性を両立させる取組です。

☑ 基本設計を終え、次は“かたちにする”段階へ—施工計画の策定が始まります。

昨年度には、JR 東日本による基本設計が完了し、新駅舎の構造や形状、バリアフリー対応、自由通路の位置などが取りまとめられました。そして、今年度から来年度にかけては、詳細設計と施工計画の策定が本格的に進められます。この段階で、施工方法、実施工程などが具体化され、工期短縮の可否を左右する重要な時期となります。



現在の JR 福田町駅

☑ 工期短縮のカギは今！今年度・来年度が勝負どころ——

地域が待ち望む新駅の早期実現へ向け、いよいよ正念場です。

新駅の供用開始は令和16年度を目標としていますが、私は議会で「地域の皆さんは9年も待てない」として、令和7～8年度の詳細設計段階こそが最大の工期短縮のチャンスであると強く訴えました。これに対し、仙台市は「JR 東日本と協力し、可能な限り早期供用に向けて検討する」と答弁しています。

☑ 駅周辺の治水・交通を整備へ——安全なまちづくりに向けた取組が本格始動！

駅舎だけでなく、駅周辺の治水・交通インフラ整備も一体で進められます。JRは自由通路や線路下水路の拡幅を担当しますが、そのために仙台市は駐輪場・自由通路へのアプローチ部の用地取得を今年度実施する他、今後道路・排水施設などの整備を並行して行います。特に、令和9年度からは水路拡幅工事に着手する予定で、これに並行した田子排水機場のポンプ増設により、豪雨時の排水能力が大幅に向上し、福田町エリア（田子・福住町・仙石）の浸水リスクが大きく低減します。

地域の方々が安心して利用できる安全な駅へ——

一日も早い完成を目指して、引き続き議会からも強く後押ししてまいります。